

令和3年第3回定例会一般質問通告事項

9 月 8 日	<p>巻 幡 伸 一 議 員（尾道の会）</p>	<p>質問方式：一問一答方式</p>
	<p>1 厳しい財源確保について</p> <p>(1) 市税等の徴収率向上を目指して、どんな取り組みをされていますか</p> <p>(2) 新産業、新事業創出のための支援と雇用の拡大策の促進はどうなっていますか</p> <p>(3) 市の所有する施設などに、会社名やブランド名を付ける命名権の販売はどうでしょうか</p> <p>(4) 広告収入を更に拡大する、対象と広報手段の取り組み策はいかがですか</p> <p>(5) 公の施設の、重ねて指定管理者制度の導入と民間委託の推進に努めていただきたいがどうでしょうか</p> <p>(6) 寄付制度を充実させること。これには特徴ある目的を設定し、PR方法を精査し取り組んでいただきたいがどうでしょうか</p> <p>(7) 保有財産の処分状況と廃道敷地や旧水路敷地などの不用財産の確認と、積極的な処分を提示して努めていただきたいがどうでしょうか</p> <p>2 脱炭素社会の実現について</p> <p>(1) 2050年までに温暖化ガスの排出を実質ゼロ（カーボンニュートラル）にする国の方針は達成できると思いますか</p> <p>(2) 脱炭素社会では化石燃料に代わる再生可能エネルギーが求められると思いますが見解をお聞かせください</p> <p>(3) 尾道市は脱炭素に向けどのような事業を実施されましたか。また今後官民で経済波及効果が生じる組織体制が求められると思いますが、その取り組む姿勢をお聞かせください</p> <p>3 災害に強いまちづくりについて</p> <p>(1) 毎年のように発生する自然災害、とりわけ大雨に対する対策が追いついていないのは何が原因でしょうか</p> <p>(2) たて続けに起きる災害の中で防災活動のスローガンである「自助・共助・公助」が確実に実践されていると思われませんか。実践されていない地域があるならその実現のためにはどのようなサポートが必要と思われませんか</p>	

9 月 8 日	<p>(3) 芸予地震を教訓とした、南海トラフ大地震を想定する行政と議会が一体感を持ったプラン・ドゥ・チェック・アクションが急務と考えますが所見を伺います</p> <p>(4) 因島中庄地区での 2018 年と 2021 年の家屋被害の戸数と浸水（床上・床下）件数をお聞かせください。また 3 年間で同じ個所が被災した原因と対処された工事内容をお聞かせください</p> <p>(5) 市民に対して納税を強いるなら、災害が発生しても耐えられる強いまちづくりが最上位の最優先ではないかと思うがその見解を伺います</p>
------------------	---